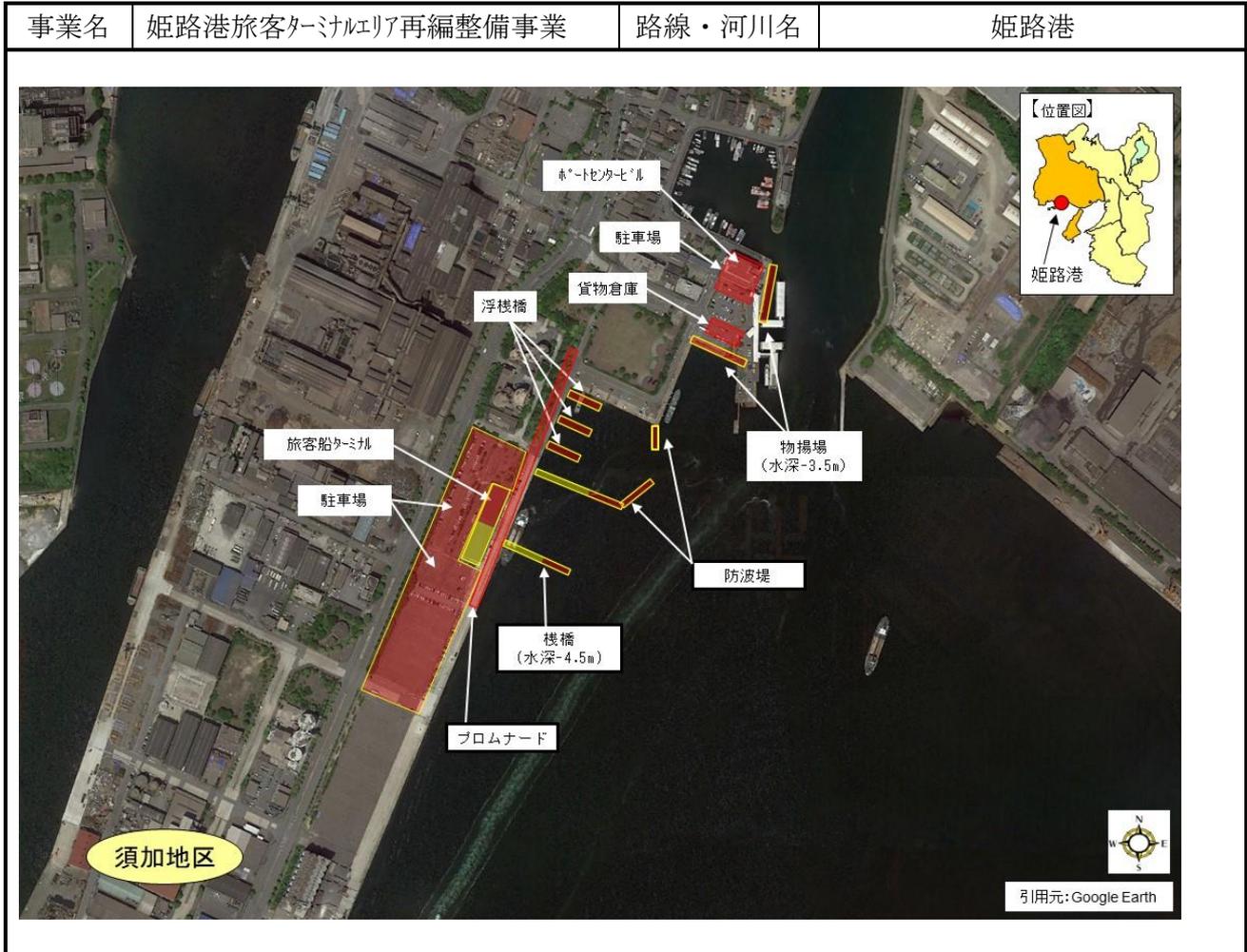


令和6年度 投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	土木部 港湾課		記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 菅野 長久 (整備班長 久米 秀和)		内線	4440 (4450)
事業種目	港湾事業	新規評価年度	令和元(2019)年度		現計画	新規評価時点	
事業名	姫路港旅客ターミナルエリア 再編整備事業	事業採択年度	令和2(2020)年度	総事業費	57億円	37億円	
		着工年度	令和2(2020)年度	内地地補償費	3.3億円	0.3億円	
事業区間	姫路市飾磨区須加	完成予定年度	令和13(2031)年度	令和6(2024)年度			
		進捗率 (用補進捗率)	26% (0%)	—			
		残事業費	42億円	37億円			
事業の目的				事業内容 () 新規評価時点			
<p>姫路港の海の玄関口である旅客ターミナルエリアの活性化は、姫路市のみならず播磨地域の活性化に寄与する。このため、ポ-トセンタービルの老朽化や耐震性能の不足、駐車場の不足等による利便性・快適性の欠如、貨物運搬と歩行者の輻輳等の課題解消を図るため「姫路港旅客ターミナルエリアリニューアル基本計画（H30.3）」を策定した。この基本計画に基づき、旅客機能の集約や貨物と旅客の効率的な機能配置などを行い、旅客船利用者の利便性・快適性の向上を図る。加えて、港湾施設の再編とあわせて民間事業者による新たな集客施設を導入することにより、にぎわいの創出を図る。</p>				<p>【工事概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浮桟橋 3基 ・防波堤 延長 200m ・物揚場[水深-3.5m] 延長 182m ・プロムナード 延長 765m ・フェリー桟橋[水深-4.5m] 延長 85m ・貨物倉庫 1棟 ・駐車場 面積 1.1ha ・旅客船ターミナル建替(改修) 1棟 <p>【関連事業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客施設[民間事業] 1式 			
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>本計画では旅客機能の集約や貨物と旅客の効率的な機能配置などを行い、旅客船利用者の利便性・快適性の向上を図る。計画に対する地元の期待も高く、早期の事業完了が望まれている。</p>						
	<p>【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】</p> <p>①事業期間の延伸（7年）</p> <p>(ア) 旅客船ターミナルの改修に向け調査を進めた結果、想定よりも老朽化が進んでいたことや、ア-スベスト処分等が必要なことが判明したため、既存施設の改修から建替に計画の見直しを行った。このため、関係者との調整が必要となり、事業期間を5年延伸する。</p> <p>(イ) 新型コロナウイルスの蔓延等により、当初予定よりも関係者協議が進まなかったため、事業期間を2年延伸。</p> <p>②事業費の増加（20億円）</p> <p>(ア) 旅客船ターミナルを改修から建替えへ見直したことに伴い工事費が増加。</p> <p>(イ) 旅客船ターミナルの改修に向け調査を進めた結果、ア-スベスト処分費等が増加。</p> <p>(ウ) 物揚場整備に伴う用地交渉の結果、物件補償費を新たに計上。</p> <p>(エ) 労務単価及び物価上昇等を受け工事費が増加。</p>						
進捗状況	<p>①令和3年度に仮設貨物倉庫が完成。</p> <p>②令和4年度に防波堤等の施設設計が完了。桟橋のブロック製作等が完了。</p> <p>③令和5年度に旅客船ターミナルの整備の基本設計を行い、令和6年度から新ターミナル整備に向けた施設設計を進める予定で関係者協議を行っている。</p>						
評価視点	評価結果の説明						
審査会意見及び対応方針(R元年度新規評価)	【審査会意見】 事業着手は妥当			【対応方針】 —			
(1)必要性	<p>①本エリアは、小豆島・家島方面への定期旅客船利用や家島方面への貨物輸送、大型クル-ズ船の寄港等、姫路港の海の玄関口として利用されているが、ポ-トセンタービルの老朽化や耐震性能の不足、駐車場の不足など、旅客機能の改善が必要である。</p> <p>②旅客船ターミナルは、1階を貨物倉庫として利用しており、貨物運搬に時間を要する上、クル-ズ船寄港時等には貨物車両と歩行者が輻輳するため、旅客と貨物の機能分離が必要。また併設する駐車場を含め低利用となっているため、旅客船ターミナルへ老朽化したポ-トセンタービルの旅客機能を集約することが必要である。</p> <p>③飾万津臨港公園南側が物揚場として利用され、気軽に近づける水辺空間となっておらず、プロムナード等による魅力的なみなと空間の形成が必要である。</p>						

		④旅客船利用者に加えて、地元、市民やその周辺住民等の多くの人が利用できる新たな集客施設の導入により、姫路市の臨海部における人のにぎわいと魅力ある交流の場となることが期待されている。(民間資金を活用した関連事業)
(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)		①費用便益比 総事業 B/C=1.7 (前回評価時 B/C=1.1) 残事業 B/C=2.5 (前回評価時 B/C=1.1) ②旅客機能の集約による移動時間の短縮、貨物と旅客の機能分離による貨物車両と歩行者の輻輳解消とともに、エリア全体の再編整備により、交流機会の増加が図られる。 ③学識経験者、地元代表、商工・観光・ふ頭関係者、行政で構成する「姫路港旅客ターミナルエリアリニューアル基本計画策定委員会」において、再編整備の目指すべき方向性や取組方策を検討し、平成30(2018)年3月に基本計画を策定している。 ④令和元(2019)年7月に港湾計画を改訂している。
(3)環境適合性		①旅客施設を統合・集約することで施設整備に伴う負荷を低減する。 ②物揚場については既設の護岸を改築し、建設副産物や水質汚濁等の発生を最小限とすることから、環境に与える負荷が小さい。 ③陸域に加えて海上からの見え方にも配慮し、旅客船ターミナルやプロムナード整備等を行い、姫路港の海の玄関口としてふさわしい良好な港景観の形成を図る。
(4)優先性		①ポートセンタービル((株)姫路ポートセンター所有)は、旧耐震基準の建物であり、建設後49年が経過していることから、更新時期(耐用年数:建設後50年)が迫っている。交通結節機能の維持・確保とともに、急増するクルーズ需要にも対応し臨海部のにぎわいの拠点を創出するため、早期に再編整備に着手する必要がある。
再評価の結果	継続	左の理由 事業の必要性は、前回評価時と変わっておらず、旅客機能を集約し、貨物と旅客の効率的な機能配置を行うことで、利便性・快適性の向上とターミナルエリアの活性化によるにぎわい創出を図っていく。地元の要望も強いことから継続して事業を実施する必要がある。

事業進捗状況概要図（継続：再評価）



	事業進捗状況・予定	整備効果
全体 R2 (2020) ~ R13 (2031)	【事業費＝57 億円】 浮棧橋 3基 防波堤 延長 200m 物揚場(水深-3.5m) 延長 182m プロムナード 延長 765m フェリー棧橋(水深-4.5m) 延長 85m 貨物倉庫 1棟 駐車場 面積 1.1ha 旅客船ターミナル建替 1棟	港湾施設の再配置に向けて段階的に整備が進んでいる。旅客船ターミナル整備に向けての準備が進んでいる、 旅客機能の集約や貨物と旅客の効率的な機能配置などを行い、旅客船利用者の利便性・快適性の向上が図られる。
事業採択～ 再評価まで R2 (2020) ~ R6 (2024)	【事業費＝15 億円】 仮設倉庫設置 1棟 旅客船ターミナル解体 1棟 各施設基本・詳細設計 1式 フェリー棧橋ブロック製作・準備工 1式 防波堤ブロック製作・準備工 1式	
今後7年間 (予定) R7 (2025) ~ R13 (2032)	【事業費＝42 億円】 浮棧橋整備 3基 防波堤整備 延長 200m 物揚場(水深-3.5m)整備 延長 182m プロムナード整備 延長 765m フェリー棧橋(水深-4.5m)整備 延長 85m 駐車場整備 面積 1.1ha 旅客船ターミナル設計・整備 1棟	

事業の必要性・優先性

- ① ポートセンタービル(建設後49年経過)は老朽化が進行し、耐震性能も不足している上、繁忙期には駐車場が不足しているため、旅客機能の改善が必要。
- ② 旅客船ターミナル1階は貨物用倉庫として利用しており、貨物車両と歩行者が輻輳している。増加するクルーズ需要にも対応するため、貨物と旅客の機能分離が必要。また旅客船ターミナルは併設する駐車場を含め低利用となっているため、旅客船ターミナルへ老朽化したポートセンタービルの旅客機能を移転集約することが必要。
- ③ 飾万津臨港公園前が物揚場として利用されており、気軽に近づける水辺空間となっておらず、プロムナード等による魅力的なみもと空間の形成が必要。
- ④ 旅客船利用者や地元、市民等の多くの人々が利用できる新たな集客施設の導入による、にぎわいと魅力ある交流の場の創出。

現況・再編整備後のイメージ

現況



再編整備後



事業の必要性・優先性①

- ・ポートセンタービルは老朽化が進行しており、耐震性能も不足している
 - ・隣接する時間貸駐車場が繁忙期に不足している
 - ・定期船利用者が利用する月極駐車場が当該エリアから遠く、駐車台数も不足している
- ⇒ポートセンタービルの旅客機能の改善が必要

①ポートセンタービル

昭和50年に建築された地上6階、地下1階のRC造建築物。旧耐震基準の建物で建設後49年が経過し老朽化が進行。



(ポートセンタービル外観)

地下：駐車場
1F：乗船券売場、待合室、売店
2F：姫路みなとミュージアム
3～5F：貸会議室、貸事務所
6F：旅館（閉鎖中）
所有：(株)姫路ポートセンター



(1F待合室の状況)

②駐車場

- ・時間貸駐車場（全76区画）



(繁忙期の満車状態の時間貸駐車場)

- ・月極駐車場（全536区画）



(全区画契約済の月極駐車場)

港湾-6



出典：国土地理院

事業の必要性・優先性②

- ・旅客船ターミナル1階は貨物用倉庫として利用しているため、クルーズ船寄港時等に貨物車両と歩行者が輻輳している
 - ・貨物倉庫から物揚場まで遠く貨物運搬に時間を要している
- ⇒貨物と旅客の分離による効率的な機能配置が必要



(旅客船ターミナル1Fの倉庫)



(貨物の積込・運搬状況)



(クルーズ船寄港時の貨物車両の警備状況)

事業の必要性・優先性②

・ポートセンタービルの旅客機能の改善が必要である一方で、旅客船ターミナルは併設する駐車場を含め低利用に止まっている
⇒旅客船ターミナルを活用したポートセンタービルの旅客機能の移転による旅客機能の集約が必要

旅客船ターミナルは、大型旅客船等の不定期便発着のターミナルとして平成元年に建設された地上2階建ての鉄骨造建築物で新耐震基準の建物だが、2階は企業の展示販売会で利用される等、待合所としての利用はない。



旅客船ターミナル（岸壁側外観）

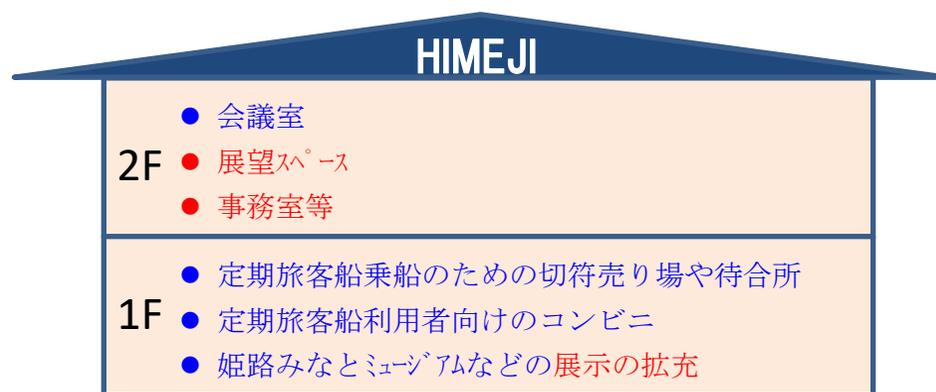


(2Fの展示会利用)

■旅客船ターミナルの使用状況（基本計画(H30.3)より）

利用形態	使用日数	集客人数
民間企業の物産展等	62日	11,760人
海上保安部テロ対策訓練	1日	120人
イベント(ふれあいフェスティバル・みなと祭り等)	4日	一人
合計	67日	11,880人

□旅客船ターミナルに移転・導入する主な旅客機能



※青地はポートセンタービルから移転する機能、赤字は新たに導入する機能



(現在の定期旅客船の切符売り場)



(現在の姫路みなとミュージアム)

事業の必要性・優先性③

- ・飾万津臨港公園南側は物揚場であるため気軽に近づける水辺空間になっておらず、日常利用が低調
- ・海の玄関口として港景観形成がなされていない⇒プロムナード等の整備による魅力的なみなと空間の形成が必要

飾万津臨港公園は、姫路港ふれあいフェスティバルや姫路みなと祭ではメイン会場や花火の観覧場所として利用されているが、前面に物揚場があるため気軽に近づける水辺空間になっていない。



(飾万津臨港公園の南側に物揚場)



(姫路港ふれあいフェスティバル)



(姫路みなと祭り花火大会)

事業の必要性・優先性④

- ・港湾施設の再編とあわせて、旅客船利用者や地元、市民やその周辺住民等の多くの人々が利用できる新たな集客施設の導入により、姫路市の臨海部における人のにぎわいと魅力ある交流の場づくりが期待されている

【姫路港旅客ターミナルエリアリニューアル基本計画の検討に係るアイデア募集より】

(平成29年9～10月実施：兵庫県)

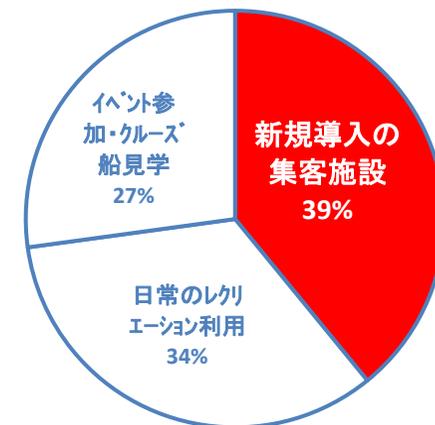
【姫路港旅客ターミナルエリアリニューアルに係る利用意向Webアンケート結果より】

(平成31年3月実施：兵庫県)

魅力的な機能導入によるにぎわいの拠点づくりに関するアイデア：

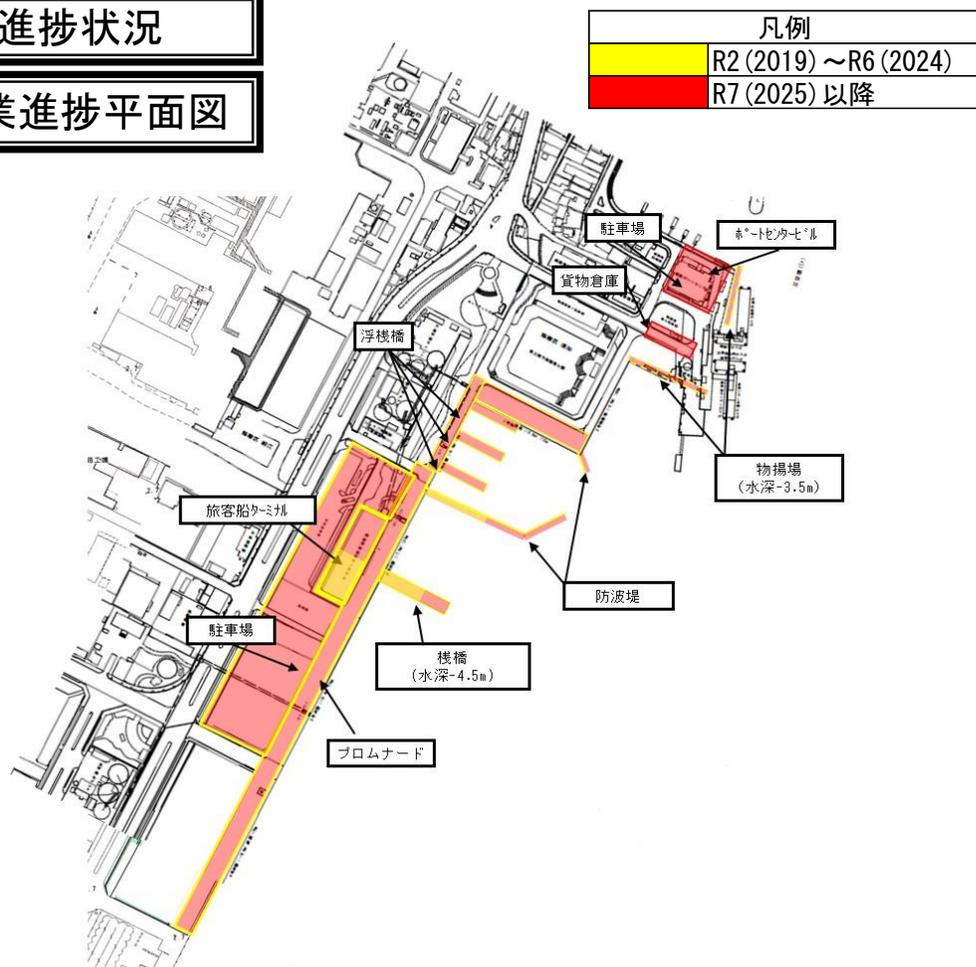
- a) とれとれ市場・海産物の販売コーナー等、海産物や特産品を活かした施設
- b) 簡単な食事ができるところ、海を眺められるカフェ
- c) 観光情報の発信・充実
- d) みなとミュージアムの改善・充実
- e) 歴史・文化情報の発信・充実
- f) 公園の充実、レジャー施設、スポーツ施設、リゾート施設、商業施設、展望施設

リニューアル後に行ってみたいと答えた方の訪問目的：
「新規導入の集客施設の利用」
 の割合は約40%



進捗状況

事業進捗平面図



現況写真

①旅客船ターミナル(解体前)



②旅客船ターミナル(解体後)



③棧橋ブロック製作



工程表

区分	施設	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
港湾事業	浮棧橋		■	■							■	■		
	防波堤	■	■	■								■	■	
	物揚場		■	■	■									
	プロムナード		■	■	■							■	■	
	フェリー棧橋	■	■	■	■			■	■	■				
	貨物倉庫				■	■								■
	駐車場	■	■			■	■		■	■				■
	旅客船ターミナル	■	■	■	■	■		■	■	■				
関連事業	集客施設 (民間事業)						●	●	●	●	●	●	●	

■ : 前回評価時点
■ : 現計画

事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
旅客の安全確保	貨物と旅客の輻輳が解消されることによる便益 (クルーズ船寄港時の警備員の配置が不要になることによる便益)
移動コストの削減	駐車場から乗船までの移動時間が短くなることによる便益 貨物倉庫から物揚場までの運搬距離が短くなることによる便益
交流機会の増加	水辺空間の形成などエリア全体の再編整備に伴うにぎわいの発生により、来訪者が増加することによる便益
利用環境の改善	旅客等の利用環境が改善されることに対する環境便益

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)			C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用	事業費	維持 管理費		
				(百万円)	(百万円)	(百万円)		
港湾	姫路港旅客 ターミナルエリア 再編整備事業	旅客の安全確保	15	警備員削減:8人/回→0人/回	5,306	5,278	28	1.7
		移動コストの削減	456	時間短縮(旅客):約4分/往復 時間短縮(貨物):約1分/往復				
		交流機会の増加	3,146	訪問回数の増加:94,230人/年				
		利用環境の改善	5,241	支払い意思額 715円/世帯・年				
		計	8,857					

※端数処理の関係で合計は一致していない

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等	
利用者	交流・レクリエーション	クルージング機会の増加	○	当該エリアの利便性・快適性の向上とにぎわいの創出により、クルージングの魅力が向上し、クルージング機会の増加に寄与。
地域社会	環境	良好な景観の形成	○	陸上に加えて海上からの見え方にも配慮し、プロムナードや緑化整備を行い、姫路港の海の玄関口としてふさわしい良好な港景観を形成。
	交流・レクリエーション	観光地としての魅力向上	○	当該エリアの利便性・快適性の向上とにぎわいの創出に合わせて、ポートセールスの推進や観光情報の発信・充実を図ることにより、各観光地の魅力向上に寄与。

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	学識経験者、地元代表、商工・観光・ふ頭関係者、行政で構成する「姫路港旅客ターミナルエリアリニューアル基本計画策定委員会」において、目指すべき方向性や取組方を検討し、平成30年3月に基本計画を策定している。
-------	--